

広島女学院中学校

入試科目		算数	国語	理科	社会	総合
試験時間		50分	50分	あわせて45分		—
配点		120点	120点	50点	50点	340点
受験者平均		76.0点	81.2点	28.7点	26.5点	212.4点
合格の目安	得点	70点	75点	25点	25点	195点※
	(%)	58.3%	62.5%	50.0%	50.0%	57.4%
昨年度との比較		横ばい	横ばい	やや難化	横ばい	横ばい

※当社予想

算 数

1	計算問題	(1)かけ算	(2)分数の計算	(3)小数の計算	(4)小数・分数の計算	
2	一行問題	(1)割合	(2)割合	(3)速さ	(4)公約数	(5)場合の数
3	図形問題	(1)展開図	(2)回転体(体積・表面積)	小問数：2	(3)平面図形(面積)	(4)角度(おうぎ形)
4	規則性	小問数：3	5	容器と水量	小問数：3	

難易度は、昨年と同程度です。問題の構成も広島女学院中学校らしい流れとなっています。大問ごとに出题される分野にも変化はなかったため、受験生が戸惑うことはなかったと思われます。準備をしてきた受験生にとっては、十分対応可能な問題だったでしょう。

1は計算問題です。昨年と同様、4題の出题となりました。どれも正解する必要がある基本から標準的な計算問題です。

2は一行問題です。(1)・(2)は割合の、(3)は速さの基本問題です。(4)は公約数の基本問題です。余りに注意して、最も小さい数を求めましょう。(5)は場合の数の問題です。知識がある受験生も色々な条件を考えて解かなければいけないので、数えきるのに苦労したと考えます。

3は図形の小問集合です。(1)は展開図の問題です。(2)は回転体の

問題です。広島女学院中学校では珍しい問題です。体積も表面積も円周率をまとめて計算してミスを減らしていきましょう。(3)は折り返し図形の面積を求める問題です。面積比と相似比を用いる方法、図形を区切って考える方法、等積移動して考える方法など、様々な解き方がありますが、その分受験生は混乱してしまったでしょう。(4)はおうぎ形の角度の問題です。半径の比が与えられているので、おうぎ形の面積比をもとにして、問われている角度を求めていきましょう。③の図形の問題は普段から色んな問題を幅広くやっておく必要があります。今年度では、(2)や(4)は受験算数ではよく見る問題ですが、難易度は高いので、一定レベル以上での練習が必要となります。(3)もその場で解法を考えなければならぬので、様々な種類の問題で練習をしておく必要があるでしょう。

④は規則性、三角数に関する問題です。(1)は三角数と周期の問題です。(1)は「この大問は三角数を使う問題だ」と気付かせてくれるリード問題です。(2)と(3)は本来同じ問題です。ですが、(3)を解きやすくするために、(2)で解法を絞らせてくれています。三角数の性質や、差に注目すれば計算だけで(3)は解けます。それを要求すると、一気に難易度が上がってしまうので、(2)で三角数を書き出す解法を誘導して

くれています。広島女学院中学校の受験生への優しさが表れている大問ですし、誘導に乗れるくらいの学力は必要だと示してくれている大問だと思います。

⑤は容器と水量に関する問題です。容器と水量の問題は女の子が苦手な単元でもあるので、苦労した受験生も多かったのではと予想できます。

(1)は体積を求めることができれば答えを出すのはたやすいでしょう。

(2)は水面の上昇の速さに関する問題です。この問題は同じ水の量を入れるとき、底面積が小さいほど水面の上昇が速くなること、時間の経過で水の入る場所の底面積が変わることに注目して解いていく問題です。比の感覚や低学年のうちの実体験が役に立ちます。(3)は(1)、

(2)の数字を使ってグラフをかいていきましょう。これまでの問題をしっかり解けていればグラフをかくことは難しくありません。

広島女学院中学校は基本から標準の典型問題が多く、受験生に求める算数力の伝わる問題が特徴です。ただ、日頃から基本問題、標準問題の練習をきっちりし、しっかりした力がないと確信を持って正解が書けない問題もありました。日々の勉強においても「なぜそうなるのか」「どうしてこう求めるのか」といったことを考える習慣をつけておきましょう。いざというときの得点力を高めることに繋がります。

国語

一	森毅	『間違っただっていいじゃないか』	(説明文 約3800字	小問9数問	うち記述1問)
二	上田三四二	『深んど』	(物語文 約5200字・	小問数12問	うち記述2問)
三	漢字の書き取り (小問数8問)				
四	漢字の読み取り (小問数4問)				

今年は大問4題の構成で、昨年度の問題と比較して、問題構成に大きな変化はありませんでした。昨年同様に、限られた時間内で長い文章を丁寧に、かつ正確に読み取る力をつける必要があると言えるでしょう。

それでは、大問ごとに見ていきます。大問三の漢字の書き取り問題では、「館」「風潮」など小学生にあまりなじみのない漢字は難しかったかもしれません。また、「導く」「耕す」「養う」などは簡単な漢字で

すが、送りがなも問う問題が見られました。

大問四の漢字の読み取り問題では、「湯治」「類い」「車窓」などが出題されており、単に漢字の読みというだけでなく語い力も求められていると言えるでしょう。

大問一は説明文の読解です。内容は2つに分かれており、前半は学校をモデルとした競争社会から生まれる差別に対する筆者の考え、後半は木々を人間に例え、人間社会を雑木林に例えて、色々な人がいてもいいじゃないかという筆者の考えを説明しています。

設問は、問一が言い換え、問二が四字熟語、問三が表現の特色、問四が接続語、問五、問七が理由選択、問六、問八、問九が内容理解に関する選択問題でした。問六で二十字以内の記述問題が出題されていますが、傍線部と同一段落が「杉山について説明している」ことに気づけば、まとめやすい問題だったと思われます。良質の問題がずらりとならび、全体的にバランスよくまとまっています。

大問二の出典は、上田三四二著の物語でした。この物語は昭和文学全集第30巻にも収録されています。「深んど」は漢字で「深所」と書き、深い池や沼を指す言葉です。この物語では、一緒に遊んでいた同級生の友人が貯水池に落ちてしまい、大人のちからを借りてなんとか助かったという事件を中心に、そのときに何もできなかった主人公、その後にたてられた噂、それに対しての主人公の行動と心情が描かれています。

設問では、問一、問三、問四が場面把握を問う問題、問二、問六、問七が語いを問う問題、問八、問九、問十、問十一が主人公の心情を問う問題で、問五が心情の理由を問う問題でした。記号選択問題と書き抜き問題、穴埋め問題で構成されています。やはりこちらも説明文同様に、良質の問題でバランスよくまとまっていました。少し古い作品ということもあり、なじみのない言葉や時代背景の違いなどから、本文の内容をやや難しく感じた受験生もいるかもしれません。良い文章というものは、新旧にかかわらず使われるということだと思います。本文に付随している注釈を活かして、しっかり場面の把握ができるかどうかは1つのポイントになったと思います。想像力も物語を読解する上で必要な要素になっています。

全体的には記号選択問題と書き抜き問題が中心で、漢字を大問でしっかり出題するスタイルに大きな変更はありませんでした。広島女学院の国語対策は、読む力を付けることが第一です。英進館鯉城学院作成「中学入試国語出典読書案内」を参考にして、少し古い作品なども読んでみましょう。古い言葉だからといっても、意味のわからない言葉が増えれば増えるほど読解は難しくなり、最終的には解ける問題も少なくなってしまうと思います。問題を解くために必要なのは、まず読む力であり、漢字や語句の力を土台にしなければ、読む力は絶対に身につかないということを意識し、今後の学習に取り組みましょう。

理 科

- 1 地学分野から、川の流れのはたらき に関する問題（小問4）
- 2 地学分野から、星の動き・科学時事 に関する問題（小問6）
- 3 生物分野から、血液循環 に関する問題（小問4）
- 4 地学分野から、地球温暖化・二酸化炭素 に関する問題（小問4）
- 5 化学分野から、物の燃え方 に関する問題（小問4）
- 6 化学分野から 物の溶け方 に関する問題（小問3）
- 7 物理分野から 物の運動 に関する問題（小問7）

今年は、物理・化学・生物・地学から合計7題の構成となっています。大問数は多いように見えますが、試験時間に対しての小問数は適当だといえます。内容としては、記述、計算、科学時事も含んでバランスよく作られています。レベルは基本から標準が中心で受験生の各単元の定着度を計れる良い問題となっています。注意点として、社会と同じ冊子になっているので、予めどちらの教科から始めるかを決めておいて、さらに、その時間配分もしっかり考えておく必要があります。

1 川の流れのはたらきについての問題

（1）（2）は基本中の基本で、記号の見間違いだけには注意すること。（3）（4）は近年の自然災害に関する知識を問う問題で、受験知識ではないので、解けなくても仕方ないでしょう。

2 星の動きからの定番の問題

（2）で科学時事の「ブラックホール」は、弊社の第1回の広島女学院中模試で出題しました。他の問題は基本的や知識問題なので、全問正解といきたいところです。

3 ヒトと魚の血液循環についての問題

極端に簡略化した血液の流れを示した図から血管の種類や流れている血液の特徴を考えますが、循環の知識がしっかりしていないと対応は

難しいでしょう。心臓の作りからその優位性を記述する問題ですが、説明文が添えてあるので自信をもって答えることができたと思います。

4 大気中の二酸化炭素濃度の変化の推移を考える問題

頻繁に出てくるグラフなので、受験生は見てすぐに何が問われるか予想できたはずで、一見グラフから考える問題のように見えますが、実は演習量が問われた知識問題といえます。

5 物が燃えた後の重さの変化についての問題

金属は酸素と結びついて重くなり、わりばしは二酸化炭素が発生して軽くなる。という重さの変化がポイントとなります。

6 もの溶け方の頻出問題

飽和水溶液の濃度計算、水温と水の量の変化によって溶ける量がどう変わるか、グラフの読み取りが出来るかを問う頻出内容です。（3）は、グラフを読みながら、選択肢の正誤を吟味していく面倒な作業になります。粘り強さが問われます。

7 斜面上の小球が下る運動についての問題

下ってきた小球が木片にぶつかり、木片を動かす。これも頻出問題で、受験生は何度も練習してきた内容です。その中にあって、実験3の下った小球が用意されたジャンプ台を飛び出す問題は目新しいものでした。

しかし、いずれも実験結果を読み取り、判断する問題です。

対策としては、基本、標準レベルの問題をしっかりと演習して、単元を理解定着すること。そして、難問はないので、ミスの少ない答案作りが

重要です。近年、数は少ないですが、科学時事の問題が出ているので注意しておきましょう。

社 会

① 《地理》日本の産業や自然に関する問題(7問)

② 《歴史》歴史に関する問題(13問)

③ 《公民》現代社会や税制に関する問題(5問)

理社合わせて45分で、配点は各50点満点という形式は今年も変わりません。今年の問題数は25問(昨年は22問)でしたので、理科との時間配分を考えると、1問1分くらいのペースですすめていくことになります。出題形式は、記号選択15問、語句記述7問、文章記述3問で、昨年と比べると語句記述が2問増えましたが、知識だけで答えることができる問題であるため、特に時間が足りなかったということもなかったと思います。また文章記述問題については、今年は資料の中からヒントを読み取って考えた上で記述させるものではなく、知識で答えることができるものであったため、基本的な知識が身につけている受験生にとっては、解きやすいものだったのではないのでしょうか。ただし、記号選択問題では資料の内容をきちんと理解できているかを試す問題がでており、思考力を問う出題がありました。受験者平均点は昨年より若干低い26.5点となり、配点が50点満点となってから最も低いものとなりましたが、難易度は昨年度とほぼ横ばいでした。

①は日本の産業や自然に関する問題でした。問われている問題は、県名、リアス海岸の特徴、地域ごとの降水量の違い、公害病の名前など、基本的な知識を確認するものばかりです。(5)には、国内の貨物輸送量に関する資料の読み取り問題がありました。単純な知識を問う問題ではありませんが、知識と組み合わせる資料を読み取ることで、答えが導

き出せます。(7)は昼間人口と夜間人口の比較表をみて答える文章記述問題でした。これは頻出問題ですので、知識問題といってもよいと思います。7問のうち、(3)(5)(6)の3問が資料の読み取りや思考力を問う問題で、残りの4問は知識を問う問題となっており、思考力と知識をバランスよく確認する構成となっていました。

②は歴史に関する問題で、例年通り問題数は地理や公民より多いものとなっていました。歴史は、歴史的出来事の名前を知っているだけではなく、その出来事が起こった時期、背景、結果まで理解しておく必要があります。今年の問題も、時期や背景などを問う問題が多く出題されていました。志賀島で発見された金印はいつの時代のものかを問うものや、楽市楽座という語句を答えさせた上で、その政策の狙いを問うもの等が出題されており、語句だけ知っているというだけでは対応できません。その他正しい選択肢を選ぶ問題も、出来事の内容や流れの基本的な理解を問うものでした。歴史分野でも難問といえるものはなく、語句や出来事とその内容が一致しているかどうかを問うオーソドックスな出題でした。

③は公民に関する出題でした。5問あった出題のうち、3問は知識を問う問題で、残り2問は思考力、分析力を問う問題でした。求められている知識は、「NGO」や「IoT」など、アルファベットのものが多

く出題されています。（昨年は「SDGs」についての出題がありました。）政治的な語句はもちろん大切ですが、現在の国を上げた活動や政策に関する語句も出題されます。問4はグラフを読み取り、その変化についての問題でした。「ジニ係数」という小学生にはなじみのない言葉が使われていますが、その説明を踏まえて「累進課税」についての知識を使って答えるものです。きちんと説明を読みとり理解する力が問われています。

広島女学院中学の社会科入試は、地理・公民分野に比べて歴史分野の配分が多いのが特徴です。その内容ですが、近年は思考力や資料の分析力を問う問題も増えてきました。とはいえ、その問題数は今年度でみると20問中5問程度。それ以外は基本的な知識を問う問題です。合格ラインを突破するのに難しい知識は必要ありません。教科書に載っている重要語句の定着と、その内容をきちんと理解することが大事です。